

「これが正しい英語の勉強法」を考える

- 英語を身につける7つの方法とは -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴き頂き、ありがとうございます。

この「開倫塾の時間」では、効果の上がる勉強の仕方についてお話をしておりますが、今日は英語の勉強の仕方をご紹介します。

「これが正しい英語学習法」というタイトルの本が、筑摩プリマ新書から出ています。筆者は、栃木県出身の斎藤よしふみさんという方で、東京大学大学院の総合文化研究所の准教授をなさっているそうであります。この栃木県生まれの先生の本を読ませて頂きましたが、非常に参考になることが書いてありました。私もその通りだと思いますので、そのさわりをいくつかお話させていただきます。

2. これが正しい英語学習方法

(1) 全部で7つほど大事なことがあります。ではどうするか。まず第1は、英語を見たらとりあえず音読をすること。英語を見たらひたすら、とりあえず音読をすること。音読というのは、声を出して読むことです。特に、英語の発音で悩んでいる人はぜひ音読に重点を置いてくださいということでありました。英文の朗読のCDが付いている場合には、それを最初に聞いて真似をする。できるだけ間違った発音をしないために、面倒でも辞書で正しい発音を確認する。そのために発音記号があります。発音記号を正確に書き写す。また、英文の朗読のCDが出ている本があれば、それを聞いてから真似をすることです。できるだけ間違った発音をしないことが大事です。英語を見たら、とりあえず声を出して読むことです。音読をすることです。

この音読で大事なものは、同じ文章を繰り返し音読することです。音読をする時には、正確にということと、この「繰り返す」ということが大事になります。「読書百遍、意自ずから通ず」。これは、どんなに難しい書物でも何度も繰り返して読んでいけば、その意味がおのずから明らかになってくるという意味です。これは素読という、古文、特に漢文の学習方法として有名ですね。英語も同じように、まずは正確に音読をする。次に、その音読を繰り返す。これが大事です。

(2) 2つめは、「書き取り」です。十分に音読練習を繰り返して、スラスラ口をついて英語が言えるようになったら、その英語をひたすらひたすら書き写すことが大事です。志賀直哉の文章をひたすら書き写して、文章の書き方を学んだ方がたくさんいらっしゃいます。中には、小説家になった方もいるということです。同じように英語も、ひたすら書き写す、正確に書き写すことが大事です。

(3)3 つめは、英文を暗唱する、つまり丸暗記することです。何も見ないでスラスラ言えるまでにします。その前に、何が書いてあるのか意味がわからないと丸暗記するのも困難ですので、内容について細部まで注意しながらまずは学習することです。よく意味のわかっている英文は、丸暗記しましょうね。

(4)4 つめは、ただし、細かいところまで注意しながら読む訓練をすることをまずは十分行って下さいね。大量の英語の文、英語の本を読むことです。

(5)5 つめは、英語の文章を書くことです。英語の文章をどんどん書いてみて下さい。英語の文章を書く能力を身につけておく利点は何か。それは、書く能力が身につけていけば、後々英語で話をする時にさほど苦労しなくてすむということです。作文の練習の仕方は、主に2つあります。日本の英語教育で行われているのは、日本語を英語に直す和文英訳と、与えられた課題について英語で自由に作文をする自由英作文です。できれば、最初は和文英訳をゆっくりゆっくりやり、それがうまくできるようになったら、今度は自由英作文というようにしていくのがよいでしょう。その際に、間違いの多い英語を書かないように心がけて下さい。ただ書けばよいというではありません。自分で作文を書き終えたら、学校や塾などの先生に読んで頂いたり、自分で声に出して読むことをお勧めします。自分で声に出して読んだときに何かおかしく感じたら、それは適切な文章ではないことが多いのです。まとめますと、最初は和文英訳で日本語を見て英語を書く練習をする。次に自由に英作文をするとういことことです。基本は和文英訳ですので、それをおろそかにせずに、間違えた英文はできるだけ書かないように先生方に添削をして頂く、これも大事であります。先生に添削して頂くときには、「礼」を尽くすこと、当然です。

(6)6 つめは、視聴覚教材を使うことです。最近、様々な教材が豊富に出ています。昔、我々が中学生の頃は、ソノシートと呼んでいた薄いビニールのレコード盤のようなものがあり、それがすり切れるまで聴いていました。今は、音声だけのカセットや CD、MD などいろいろあり、とても便利になりました。高価なビデオ教材や DVD は映像付きですばらしいとは思いますが、最初はカセットや CD、MD の教材でも十分だと思います。英語の音に耳を慣らすことが目的ですので、価格は余り問題にならないかもしれません。ものまね発声といいますが、ちょっと聴いたら言ってみる、ちょっと聴いたら言ってみる。これを繰り返すこと、それをだんだん長くしていくのが一番大事かなと思います。

(7)最後の7 つめは、自分なりの勉強の仕方を発見し、それに沿って英語の勉強をしていくことです。勉強の仕方は、自分なりに工夫したものが有用と考えます。

3. おわりに

今日は、「これが正しい英語学習法」というタイトルで筑摩プリマ新書から出ている本をご紹介しますながら、英語の勉強の仕方について考えてみました。著者は、東京大学の先生である斎藤よしふみさんです。東京大学の先生で栃木県出身のすばらしい先生ですので、ぜひ皆さんも筑摩プリマ新書の「これが正しい英語学習法」をお読みになり、英語の勉強をどのようにしたらよいかお考え下さい。

[コメント]

斎藤先生のお考えを私なりに「翻訳」とすると、英語を身につけるのに大切なのは次の6つの「練習」と1つの「能力」と考えます。

(1)音読練習

(2)書き取り練習

(3)暗唱練習

(4)速読練習 - その前提は「精読練習」 -

(5)作文練習 - 表現練習 -

和文英訳練習

自由英作文練習

(6)聴き取り練習

(7)英語の学び方を学ぶ能力(スキル)を身につけること

「練習は不可能を可能にする」、英語もこの例外ではないと思います。

- 2009年4月9日林明夫記 -